



美川小学校だより

長子配布

令和7年9月5日 第7号

Established



た
や
か
し
く
ま
し
く



令和7年度 前期学校評価の結果

7月中旬に実施いたしましたアンケート結果です。表面は、それぞれの項目を数値化したもの、裏面には今後の改善策を掲載しております。回答率は84%となりました。皆様、ご協力ありがとうございました。

		令和7年度 前期学校評価の結果											
項目		具体的な取り組み	主担当	実現状況の達成基準	児童	判定	保護者	判定	教員	判定	分析	改善策	
かし こく	①	話す聞く力	学習研究部	自分から友達の考え方を聞いたり話したりしたくない児童率と聞く目的や弱点を認めたり交流後にちちの考え方を振り返したりする場を設定している教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B	93%	A		100%	A	・児童、教員ともに肯定的評価がAであり、取組の結果が見られた。 ・保護者評価のAは73%であり、重点とする単元を絞って取り組んだ点がよかったです。 ・検証問題ではA評価が1学年、B評価が1学年、C評価が4学年であり、目標とする正答率に達しない学年が多かった。	・1学期同様、聞く力の育成に向國語科の「話すこと・聞くこと」で学習を重点単元にし、指導を行なう。 ・児童が自ら聞く意欲の目的をもつために、児童の教える達いやさしを明確にするよくなれる弁話をしたり手立てをとつづける。	
	②	家庭学習習慣化	学習研究部	家庭学習を自分から取り組んでいる児童・保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A+B	83%	B	74%	C	100%	A	・保護者評価がCであり、家族からの声かけが必要な様子が見られた。 ・児童は、昨年度によって宿題の出し方や量に違いがあったり、ゲームなどで迷惑が多い中児童が「自分から」という部分に難しさがあると考えられる。	・2学期も「レベルアップ週間」を設け、児童自身が家庭学習の目標を決めて、自分からめあつもって家庭学習に取り組めるようにする。 ・児童が自ら取り組む意欲の育成を目標に、児童の教える達いやさしを明確にするよくなれる弁話をしたり手立てをとつづける。 ・児童の実態に応じて、無理なく取り組めるように、宿題の量や質を調整する。
	③	伝え合い深める子の育成	学習研究部	・伝え合う場や伝え合った後に自分の考え方をまとめる場を設定する。 ・授業の中で、思考を深める手立てをとる。	A+B	83%	B		100%	A	・肯定的評価の割合は、昨年度前半とほぼ同じであった。 ・教員は、昨年度の課題重ねで、全職員で継続して指導している。 ・児童評価は肯定的評価が60%であり、伝え合いを自分の考え方で活かしていないと感じている児童が2割程度いる。	・伝え合う場や自分の考え方をまとめる場を設定することは継続しながら、道徳科以外でも、児童が考えだくなる間合いからなれるよくなれる考え方のスレを教員が考え実践していく。 ・伝え合いだけで終わらないように、学びの振り返りを考え整理する時間を設定し、学びの姿勢を自覚できるようにする。	
やさ しく	④	児童会活動	特活部	・活動を計画的に配置し、指導する。 ・活動の様子の見える化を図り、児童に還元する。	A+B	96%	A	84%	B	100%	A	・肯定的評価がB後期と比べて4%微増し、A評価だけを見れば、7%増となっている。 ・委員会は、定期的に活動の様子を取扱って、適切な声かけをしていることが増加の要因と考える。 ・委員会の常時活動の設定がよかったです。	・引き続き、係活動の様子を見取り、声かけをしていく。 ・後期の委員会でも、児童の問題意識、必要感から常時活動を設定していく。
	⑤	道徳教育	道徳推進教師	・校内研究の組織的な取り組み・教育活動全体における道徳教育の推進・家庭・地域とのつながりの推進	A+B	88%	B	100%	A	100%	A	・RG前期に比べ保護者アンケートの肯定的評価の割合が2%増えている。昨年度からの保護者・地域との連携した道徳教育の成果が見られる。 ・児童アンケートについては、昨年度3月の道徳アンケートでは、同じ結果だった。各学年の結果を見ると、ややばらつきが見られた。	・昨年度から行っている取組を継続しながら、児童がより自分の考え方を深めることができるように、研究授業を通して教員が学び合っていく。
たく ましく	⑥	体力の向上	特活部	・授業に時間走や鬼遊び、ストレッチや軽体・倒立を意識して取り入れる。	A+B	92%	A		100%	A	・RG後期より5%肯定的評価が増えている。 ・アンケートを取った日あたりは暑さが激しく、外での遊びも制限されていたと思いつかう。季節とともに活動の様子を見取れて、適切な声かけをしていることが増加の要因と考える。	・2学期以降も引き続き、「体育の学習」を活用しながら、体育の時間の充実度で、秋ごろを目安に、体育委員会の創造的活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を提供する。	
	⑦	自己指導能力	生徒指導主事	・学習指導の中で、児童が自己指導能力を高められるよう、児童をはめたり、認めたりして、 ・生徒指導の担当から自分の重点項目を選んで、教諭同士が手立てで交流をすることでスキルアップを図る。 ・スクールワードPDSの項目について、児童が目標をもつて取り組めるようにする。	A+B	90%	A	100%	A	100%	A	・保護者や教師など、子供と関わる大人が児童の成長をめざす取り組みが見えていた。 ・まだ児童も、90%と大差多くの児童がなりたい自分に向けて自分が行動することができている。	・2学期の目標を決める際に、キャラクターストーリーに反映したりしながら目標を立てようとする。また、その目標を達成するためどのような行動が必要かについても考えるようになる。 ・引き続き大人は児童のよきところを褒めたり認めたりしていく。
業務改善	⑩	業務改善	教頭	・昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。 ・1回の全休定時退校日とセルフ定時退校日を設定する。	A+B				92%	A	・月別平均昨年比4月:12:36減、5月:3月:56減、6月:4月:55減、7月:32減。 ・全般的に減っているが、時間外勤務時間の多い職員が固定化している。意識改善が必要であると考える。	・月1回の全休定時退校日とセルフ定時退校日を9月、10月、11月は2日設ける。 ・引き続き、昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。	
白山市学校評価共通項目	⑪	学共①	生徒指導部	・自己肯定感の向上・安定した学級、学年経営・組織的ないじめ未然防止、早期対応・互いの良さや存在を認め合う活動の充実	A+B	89%	B	97%	A	100%	A	・児童は嬉ね学校を楽しいと感じており、多くの保護者も子どもが楽しむ学校に通っていると感じている。 ・学年別に見ると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・とくに間違っている児童から互いの良さや存在を認め合う活動の充実を行なっているのが、安心感を感じられない原因であると考えられる。	・反対を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行なう。 ・大人が子供を意識的に褒めたり認めたりする場面をつくる。
	⑫	学共②	学習部	・授業力向上・校内研究の組織的な取り組み	A+B	97%	A	94%	A	100%	A	・R7後期とほぼ同じ結果であり、児童が授業を退して「わかった」「できた」が構み重なっていとると考えられる。 ・保護者評価については、子供の意見を概ね反映していると答えるが、そのほかに美川の日の参観について理解を得られていると考えられる。	・昨年度からの道徳科について授業実践を積み重ねていくので、その中で他教科でも使える手立てを考え実践する。 ・教師主導ではなく子供主体の授業を全職員で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにする。
	⑬	学共③	生徒指導部	・組織的ないじめ未然防止、早期対応・安定した学級、学年経営・自己肯定感の向上	A+B	87%	B	95%	A	100%	A	・児童も保護者も嬉ね学校に安心感を感じている。 ・学年別に見ると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑪と関連するが、反対から嫌なことになると認識されるのが、安心感を感じられない原因であると考えられる。	・反対を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行なう。 ・大人が子供を意識的に褒めたり認めたりする場面をつくる。

R7 前期学校生活アンケートより 「かしこく やさしく たくましい 美川っ子」を育てるための改善策

かしこく【分かりやすい授業を目指して】

- ・聞く力の育成に向け、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を重点単元とし、指導を行います。
- ・教師主導ではなく子供主体の授業を全職員で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにします。

やさしく【学校が楽しい児童100%を目指して】

- ・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行います。
- ・大人が子供を意識的に褒めたり認めたりする場面をつくり自己肯定感の向上を目指します。
- ・昨年度から行っている取組を継続して、児童がより自分の考えを深めることができるような道徳教育を推進していきます。

たくましく【心身ともに健全な児童の育成を目指して】

- ・体育委員会の創造的活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を増やします。
- ・自らの2学期の目標を達成するために、どのような行動が必要かについて考えさせる指導をします。

令和7年度も本校では、学校目標を「社会とのつながりの中で、学力そして豊かな心とからだをそだてる」とし、全教職員で「かしこく やさしく たくましく」を目指す子どもの姿として日々指導しています。

アンケート結果や皆様から頂いたお言葉ご意見を真摯に受け止め、今後の指導にいかしていきます。子どもの健やかな成長のためにも家庭、地域、学校が連携していくことが大切だと考えております。今後も教育活動に対するご理解ご協力を願いいたします。